

## 第42回原産年次大会の開催について

平成21年3月30日  
社団法人 日本原子力産業協会

日本原子力産業協会は「第42回原産年次大会」を下記のとおり開催いたします。

### 記

- 1. 会 期：**平成21年4月14日(火)～15日(水)  
(13日(月)夕刻レセプション)
- 2. 会 場：**パシフィコ横浜 3F大会議室  
〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1  
TEL 045-221-2121  
URL <http://www.pacifico.co.jp/index.html>
- 3. 基調テーマ：**「低炭素社会実現への挑戦——原子力は期待に応えられるか」
- 4. 構成と内容：**添付資料をご参照ください  
(大会当日まで変更が生じる場合もあります)  
なお、最新情報は当協会ホームページに随時掲載しております。
- 5. 募集の種類・参加費：**
  - ①有料枠 (一般企業・原子力関係企業等の役職員等) 46,000円 他
  - ②無料枠 (一般市民・教職員・学生・主婦等に限定)
- 6. 添付資料：**
  - ①第42回原産年次大会 開催案内
  - ②第42回原産年次大会 セッション内容 (案)
  - ③第42回原産年次大会の取材について
  - ④第42回原産年次大会 事前登録申込書
- 7. 本資料配布先：**(順不同)  
文部科学省 科学記者会・文部科学記者会、  
経済産業省 ペンクラブ・経済産業記者会 (経済部・社会部)  
エネルギー記者会、外国人記者クラブ

## 8. 原産年次大会とは

原産年次大会は、日本原子力産業協会がその主要事業のひとつとして昭和43年以来開催している国際会議で、毎年国内外から約千名の参加を得ております。本大会は、エネルギー・原子力の平和利用上の重要な問題について、国内外の専門家を中心とする意見の発表、重要課題とその解決策を見出すための討論を行うとともに、原子力研究開発利用の進め方について国民の理解促進に資することを目的としております。また平成6年以来、本大会をより開かれたものとするため、原子力関係者だけでなく、広く一般市民の方々にも積極的に参加を呼びかけています。

## 9. 社団法人 日本原子力産業協会について

日本原子力産業協会（略称：原産協会、会長：今井敬 日本経済団体連合会 名誉会長、新日本製鐵 名誉会長）は、平成18年4月、日本原子力産業会議が創立50周年を迎えたのを機に改組し、「自ら戦略的に行動する団体」として名称を変更、再出発いたしました。

原産協会は、わが国のエネルギー問題における原子力利用の重要性を踏まえ、国民的立場に立って原子力の平和利用を進めるとの産業界の総意に基づき、多岐にわたる民間産業界の中核として、直面する課題の解決に向けて主体的に行動することを目的とする公益法人です。また、政府の行う原子力開発利用計画の策定と政策の推進に協力し、原子力の平和利用を促進することによって、わが国の国民経済と福祉社会の健全な発展向上に資することを目指しています。

——< 本件お問い合わせ先 >——



(社)日本原子力産業協会 企画部 福本、加藤

〒105-8605 東京都港区新橋2-1-3 新橋富士ビル5F

Tel 03 (6812) 7101 Fax 03 (6812) 7110

Email kato@jaif.or.jp

当協会HP <http://www.jaif.or.jp/>

以上

**第42回**  
**2009年**  
**4月13-15日**  
**横浜で開催!**

**場所:**

パシフィコ横浜  
 神奈川県横浜市西区  
 みなとみらい1-1-1  
<http://www.pacifico.co.jp/>

**大会事務局:**

(社)日本原子力産業協会 企画部  
 Tel: 03-6812-7101  
 Fax: 03-6812-7110  
 e-mail: 42nd-annual@jaif.or.jp  
<http://www.jaif.or.jp/>

# 原産年次大会



毎春開催される原産年次大会は、世界の原子力産業界にとって、最大のイベントの一つ。原子力分野だけでなく幅広い分野の専門家1,500名が、国内外から一堂に結集します。

## 低炭素社会実現への挑戦 — 原子力は期待に応えられるか

当協会は、主要活動の一つとして、国内外から広く関係者の参加を得て、「原産年次大会」を開催しています。

年次大会では、エネルギー・原子力開発利用上の重要な問題についての意見発表や討論を行い、大会を通して得られた重要課題と、その解決策を見出すための指針を取りまとめ、国や産業界への問題提起、さらにマスメ

ディア等を通じて広く社会へ発信することを目的としています。

エネルギー安全保障と気候変動問題の解決の切り札としての原子力発電に対する評価が世界的に高まる一方、国内においてはさまざまな問題が山積しており、社会一般の原子力への評価は、十分に高まっているとは言えません。

このような認識のもと、第42回大会では、国際社会からの日本への期待に応えつつ、日本社会における原子力の位置づけを向上するため、原子力先進国・再開国・新規導入国など、各国の状況や関係者の取り組みを参考としつつ、原子力開発を着実に進める上でのが国および産業界の課題について考える場を目指します。

4月13日(月)	4月14日(火)	4月15日(水)
	開会セッション (9:30-12:30)	セッション1 (9:15-9:35)
		セッション2 (9:35-12:15) 世界的な原子力利用拡大の中での日本への期待と役割
		午餐会 (12:30-14:15)
レセプション (17:30-19:00)	セッション1 (14:00-17:30) 原子力大国・経済大国における低炭素社会実現に向けた原子力発電への期待	セッション3 (14:30-17:30) 低炭素社会における原子力の役割

会場ロビーにて各種展示も実施

**①国内各社の電気自動車が集結** (プラグインハイブリッドカーも含む)

トヨタ自動車(株) 日産自動車(株) 富士重工業(株) 三菱自動車(株)

②放射性廃棄物の地層処分について 原子力発電環境整備機構

③海の生き物との調和を求めて (財)海洋生物環境研究所



with NUCLEAR

LIGHTS ON

## 第42回原産年次大会 セッション内容 (案)

基調テーマ：「低炭素社会実現への挑戦——原子力は期待に応えられるか」

**開会セッション** 4月14日(火) 9:30~12:30

◆**原産協会会長所信表明**

今井 敬 (社)日本原子力産業協会 会長

◆**神奈川県知事挨拶**

松沢 成文 神奈川県知事

◆**横浜市長挨拶**

中田 宏 横浜市長

◆**講演：**

「原子力エネルギーアウトLOOK 2008」

ルイス エチャバリ 経済協力開発機構 原子力機関(OECD/NEA) 事務局長

「世界の安全保障と原子力 —— カーネギー平和財団報告書「原子カルネッサンス」」

シャロン スクワッソーニ カーネギー平和財団 上級研究員

**セッション1****4月14日(火) 14:00~17:30****原子力大国・経済大国における低炭素社会実現にむけた原子力発電への期待**

気候変動問題に関する議論の場において提示されている問題解決に向けた高い目標を達成するには原子力利用が不可欠であり、一層の活用が必要との認識が世界的に高まっている。しかし、加速する温暖化に対し、現状のままで原子力開発スケジュールが追いつくことができるのかという懸念が一方である。

このセッションでは、経済発展と低炭素社会の両立の観点から、世界経済で大きなウェートを占める国々での原子力発電の果たす役割についてレビューするとともに、原子力開発を進める上での共通課題とその解決策について考える。

**◆講演：**

「スウェーデン原子力政策の転換の意義」

——— スウェーデン (依頼中)

「イタリアの原子力発電再開の意義と将来展望」

セルジオ ガリッパ イタリア経済産業省 エネルギー担当顧問

「英国におけるエネルギー政策と原子力発電開発の見通し」

ティモシー ストーン 英国エネルギー気候変動大臣・英国財務省主席担当大臣  
付アドバイザー

「低炭素時代の原子力利用 —— フランスの視点」

アラン ビュカーユ アレバグループ 上席副社長

「カナダのエネルギー政策における原子力発電の役割」

セルジュ デュボン カナダ天然資源省 準副大臣

「成長を続けるインドのエネルギー政策と原子力発電」

シブ アビラシュ バルドワジ インド原子力発電公社 理事

「日本産業界が果たす役割」

佃 和夫 三菱重工業(株) 会長、(社)日本原子力産業協会 副会長

「中国の原子力開発計画と今後の展望」

ユ チェンフェン 中国核工業総公司(CNNC) 副総経理 \*

(\* 講演は4月15日(水) 9:15~9:35に行う予定です)

**セッション2**

4月15日(水) 9:35~12:15

**世界的な原子力利用拡大のなかでの日本への期待と役割**

世界的に原子力利用の拡大が進むなか、アジアや産油国を含む中東、南米をはじめとする新規に原子力導入を計画する国々の動きは、今後世界の原子力に新風を吹き込むことも考えられる。

このセッションでは、核不拡散、安全性、セキュリティの確保の観点もあわせ、こうした国々より自国の原子力導入政策や日本に対する期待等を語っていただき、原子力新規導入国に対し、日本はどのような支援を行っていくべきかを考える。

**◆基調講演：**

「世界の原子力開発にむけた日本の貢献」

西山 英彦 経済産業省 資源エネルギー庁 電力・ガス事業部長

**◆講演：**

「アラブ首長国連邦の原子力開発計画」

モハメッド アルハマディ アラブ首長国連邦原子力公社(ENEC) CEO

「タイにおける原子力の現状と今後の開発計画」

シリチャイ ケインミスク タイ科学技術省 原子力庁(OAP) 長官

「チリにおける原子力の現状と今後の開発計画」

フリオ ベルガラ チリ原子力委員会 委員

「ポーランドの原子力開発計画について」

トーマス ヤコヴスキー ポーランド経済省 エネルギー開発局 首席専門官

**午餐会** 4月15日(水) 12:30~14:15

今大会開催地である横浜は、今年、開港150年を迎える。

ここでは、セッション内容とは趣を変え、海外の窓口として発展してきた「港・横浜」の歴史をめぐる文化的内容の講演を聴く場とする。

**◆特別講演：**

「私の取材ノートから ～横浜開港150年～」

松平 定知 元 NHKアナウンサー、早稲田大学 大学院 客員教授

---

**セッション3** 4月15日(水) 14:30~17:30**低炭素社会における原子力の役割**

持続可能な社会に向けた低炭素社会の実現が世界規模で求められており、市民社会におけるエネルギー問題に関する理解の深まりや課題共有が重要視されている。原子力発電はエネルギー安全保障や地球環境問題の面から重要な位置付けをされているが、その推進には、トラブル等を背景とした市民の不安感に目を向け、継続的な対話を通じて相互理解を深めながら原子力に対する社会的な認識の向上を促す取り組みが求められる。

このセッションでは、対話を通じた相互理解の向上という視点を踏まえ、低炭素社会の実現に果たす原子力の役割について、環境・コミュニケーション・マスコミなど、原子力分野に限らない異なる視点を有する識者から意見を伺い、原子力関係者の今後の取り組みの参考とする。

**◆コーディネータ：**北村 正晴 東北大学 名誉教授

**◆基調講演：**

「地域の視点からの信頼醸成」

河瀬 一治 全国原子力発電所所在市町村協議会 会長、敦賀市長

「科学技術と社会との信頼構築にむけた専門家の役割」

藤垣 裕子 東京大学 大学院 総合文化研究科 准教授

**◆パネル討論：**

井川 陽次郎 読売新聞 論説委員

枝廣 淳子 環境ジャーナリスト

榊本 晃章 (社)日本動力協会 会長、東京電力(株) 顧問

八木 絵香 大阪大学 コミュニケーションデザインセンター 特任講師

---

**◆司会：**水野 潤子 フリーランスナレーター

**各種展示** 4月14日(火)～4月15日(水)**◆電気自動車(プラグイン・ハイブリッド含)**

出展：トヨタ自動車(株)、日産自動車(株)、富士重工業(株)、三菱自動車(株)

今回の年次大会では、自動車メーカー4社のご協力を得て、電気自動車(EV)とプラグイン・ハイブリッド車(pHV)を計4台展示いたします。本年からいよいよ発売が開始される車両、発売を目指して研究中の性能確認実験車を一同にご覧いただくことで、地球温暖化防止に大きく貢献できるEV・pHVの開発に取り組んでいる様子がお解かりいただけると思います。プログラムの合間には、是非とも足をお運びください。

(於：会議センター3F会場海側ロビー)

**◆放射性廃棄物の地層処分について**

出展：原子力発電環境整備機構(NUMO)

地層処分は、地下300mより深い安定した地層に高レベル放射性廃棄物等を処分する方法です。

NUMOは、処分の実施主体として、「処分施設の設置可能性を調査する区域」を全国の市町村から応募しています。

(於：会議センター3F会場受付側ロビー)

**◆海の生き物との調和を求めて**

出展：(財)海洋生物環境研究所(海生研)

海生研では、原子力施設周辺海域において、環境や生物の保全の視点から調査研究を積み重ね、その安全性に関する科学的知見を提供し、地域共生に貢献しています。

今回は、調査研究の内容や成果について、生物の展示やパネルを用いて紹介します。

(於：会議センター3F会場受付側ロビー)

**◆福井大学附属国際原子力工学研究所の概要紹介**

出展：福井大学

福井大学では、本年4月に『国際原子力工学研究所』が設置されました。原子力工学基礎分野、原子力工学研究開発分野などからなり、「もんじゅ」を生かした高速炉工学に重点を置きます。この他、新型炉や燃材料、医学物理などの研究を推進します。将来的には敦賀を拠点に大学院生を受け入れ、授業も開始する予定です。

(於：会議センター3F会場受付側ロビー)

以上

## 第42回原産年次大会の取材について

### 1. 事前登録

事前登録を受け付けておりますので、参加申込書に必要事項を記入のうえ、FAXにてご連絡ください。大会当日、会場受付にて事前登録した旨を申し出ていただければ、プレス用のネームカードと大会関係資料をお渡しいたします（できる限り事前登録をお願いいたします）。

### 2. 当日登録

会場受付にて記帳あるいは名刺を提出し、登録をしてください。

### ※午餐会への参加

午餐会については、会場のスペースの都合により原則として各社1名（本資料配布先の記者クラブを対象）の参加に限らせていただきます。

参加を希望される場合は、事前登録申込書の余白にその旨をご記入ください。

### ※プレスルームの開設

本大会開催中、「プレスルーム」を開設します。

以上

プレス

(社)日本原子力産業協会・企画部 行  
(FAX: 03-6812-7110)

## 第42回原産年次大会事前登録申込書

申込締切日：平成21年4月8日(水)

御 芳 名		登録No.	
		Tel	
		Fax	
機 関 名			
役 職 名			
御 住 所	〒		
Email			
所属記者クラブ			

※ 太枠内にご記入の上、FAXまたは郵送でご送付下さい。

受 付	月	日
参加証	月	日